

報告

ITS 世界会議参加報告

合志 和晃
Kazuaki GOSHI

九州産業大学 情報科学部 知能情報学科
Department of Intelligent Informatics, Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University
goshi@is.kyusan-u.ac.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~goshi/j/>

1. 参加報告

2004 年 10 月に ITS 世界会議が名古屋で開催されました。ITS 世界会議とは、ITS (Intelligent Transport Systems:高度交通システム) に関する最も規模が大きく権威ある国際会議です。(今回の会議登録者: 5794 人、展示会来場者: 61394 人) 1994 年にパリで第 1 回が開催されてから今回が 11 回目になり、日本での開催は 1995 年に続いて 2 回目です。内容は、セッション (論文)、展示会、テクニカルツアーなどからなります。今回、合志研究室は、九州大学大学院・システム情報科学研究院の認知科学講座 (松永勝也先生: 現九州産業大学・情報科学部・教授) と共同で参加しました。九州産業大学の学生としては、大学院 04GJK01 の浜田君も説明員として活躍してくれました。



図 1 参加メンバー

展示会では、屋内・屋外の両方に出席しました。屋外展示ブースでは、実験車両 (自家用) を展示するとともに屋外周回コースでの走行を行いました。屋内展示ブースでは、安全運転管理教育 ASSIST、KM 式安全運転助言検査、ドライビングシミュレータ、ナルセペダルの紹介を行いました。ASSIST は、情報通信技術を用いた安全運転の管理教育システムで、遠隔地からの安全運転の助言や警告や、運転挙動に基づく走行後の教育のためのシ



図 2 屋内展示

ステムです。KM 式安全運転助言検査は、認知・反応時間の突発的な遅延傾向と先急ぎ傾向の強さを検査し、その結果に応じて助言を行います。2 台のパソコンにより希望者に対して実際に助言検査を行いました。ドライビングシミュレータは、今回はパンフレットでの紹介を行いました。ナルセペダルは、踏み間違えを防止できるアクセルブレーキの一体型のペダルで、九州大学でその評価を行ったものです。自動車の形の筐体を用いたシミュレータによる体験コーナーを設けました。ASSIST の紹介では、パネル 2 枚を使った説明とともに、パソコン 2 台とプロジェクターを使って、屋外展示で走行している運転挙動を生中継で表示するデモンストレーションや車載装置で記録した運転挙動の再生のデモンストレーションを行いました。この展示会では、研究者や一般の方々たくさんの意見交換を行うことができ、社会における自動車運転事故防止の研究に対する関心の高さをあらためて感じました。パンフレットとして 4 種類ほど A4 の資料を印刷して配ったのですが、ASSIST に関するパンフレットは最終的には 500 枚ほど配り、良い広報の機会となりました。またこの世界会議がきっかけで、我々のブースを訪れた運送会社と共同で実用規模での研究を開始する予定です。

論文発表は、商用車での安全運転管理教育システムの



図 3 屋内展示

実験について発表しました。実用に近い技術として注目され、実際の使用に関連した質問がありました。論文発表以外に、最先端技術発表セッションでの発表の予定もあったのですが、10月20日の台風23号で中止になってしまいました。

実験車両を名古屋に運ぶにあたっては高速道路を自分で運転して持ち込みました。この際も運転挙動の記録やサーバーへの通信の実験を行いました。昨年度は、京都でITSシンポジウムがあり、この時も実験をしながら京都まで運転しており、この頃は、まだ、ソフトウェアが安定しておらず、ときどきサービスエリアに止めては車中でデバッグという笑えない状況でしたが、今年は、トラブルもなく順調にデータが記録できました。

ITSは情報技術の応用分野として大変面白く、さまざまなテーマで研究を行っている情報科学部の他の研究室とも連携して研究を進められたらと思っています。

2. 説明員体験記：04GJK01 浜田 裕幸

今回、私が研究を始めて初の展示会という事で「ITS世界会議 愛知・名古屋2004」に説明員として参加させていただいたわけですが、展示会が開催されていた一週間を通して、私は様々な人や研究に触れる事ができました。自動車業界の方をはじめ、一般の方々にASSISTを説明し、意見を頂戴する事で研究に対する理解や今後の展開等が見えてきました。説明を行っているうちにASSISTを使ってみたいと言う方が現れたときは、説明員としての充実感のようなものが得られた感じがしました。ここ



図 4 屋外展示：周回コース前

でお客様に頂いた批判を含める様々な意見は、普段からASSISTを扱っている人から受けるものと違ったものが多く、新しい視点からのASSISTの見方のようなものを学んだ気がしました。説明の合間にメーカー等のブース見学をすることで、研究やモノづくりに対する知見を広める事ができました。この展示会での説明は、私にとって良き研究、良き学習、良き社会勉強の場であったと思います。そして、その後の自分の研究の発展の為の良い経験になったと思います。

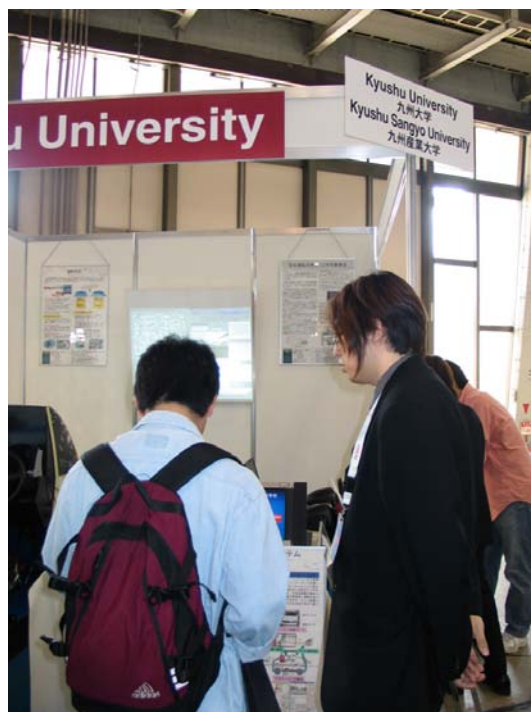


図 5 説明員として活躍する浜田君(右)